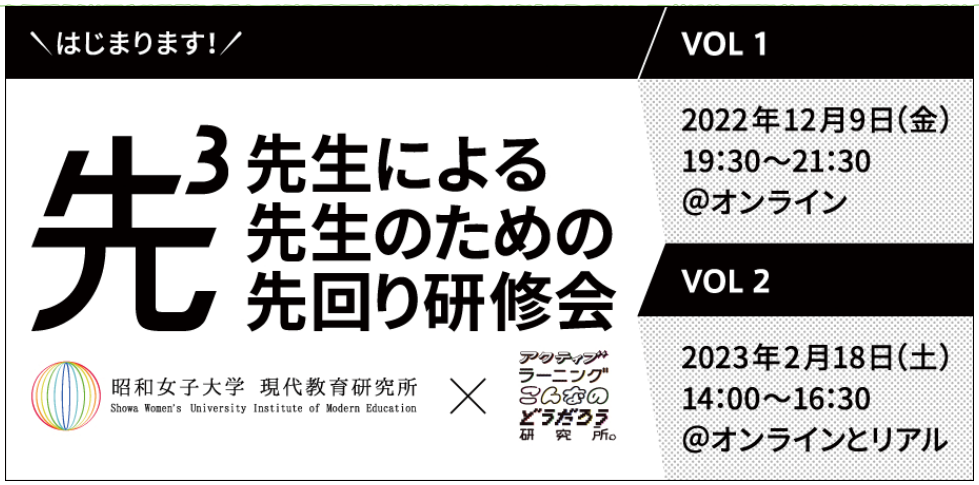
昭和女子大学
現代教育研究所
Institute of Modern Education

NEWS LETTER 10

昭和女子大学　現代教育研究所　｜　ニューズレター Vol. 10

2023年3月31日発行

現代教育研究所



コア・プロジェクト　REPORT OF CORE PROJECT

「先3」研修会　電通　アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所のコラボ企画のはじまり

2023年度、新コアプロジェクトとして、「先3」研修会が立ち上がりました。

「先3」研修会は、昭和女子大学現代教育研究所と電通　アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所のコラボ企画です。

プロジェクトのきっかけは、電通　アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所所長でクリエイティブディレクターの倉成英俊さんに、現代研究所のコアプロジェクトについて、話をしたことから始まります。「教員研修を、2つの研究所が知恵を合わせて創造できたらおもしろいよね。きっと今までにない研修会が創れるよ」という話題から、このプロジェクトは始まりました。

電通　アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所の倉成所長は常々、広告業界始めビジネス業界のノウハウと教育界のノウハウを往還させたら互いに学ぶところが大きい、と色々なところで活動されていらっしゃいます。教員として、私がいつも勇気づけられるのは、「現場の先生方の技術やマインドって実はすごいんですよ」という言葉です。「会社の中で40人からの社員をみんな同じ方向性でマネジメントできますか？1人1人の個性を把握して、プロジェクトを進行できますか？先生方はそれを、日々仕事にされているんですよ。もっと自信をもってください」というメッセージでした。倉成所長のお話は、いつも教育（者も含め）に対する深いリスペクトと期待にあふれています。その倉成所長の提案から、教員研修に新しい切り口をみつけようと、この企画が立ち上がりました。

さて、説明が遅れましたが、この研修会の「先3」とは「先生による　先生ための　先回り研修会」の略称です。私が教員になりたての約30年前、教員研修はとてもおもしろいものでした。それは教育委員会が行う官製研修でも、教職員組合のサークルが行う研修でも、とても刺激的で、創造性に満ち溢れたユニークなものでした。それがいつからか、指導要領を一定の水準で遂行するための研修会となっていったり、本質を見失いながら現在の教育への批判を繰り返すものだったり、なんだか出席することが憂鬱な研修会が官製・私設とも増えていきました。自分で創り出すカリキュラムや授業のおもしろさより、及第点を意識した授業ノウハウを求めるニーズが教育現場に強まったことが理由の一つでしょう。気がつくと、あまりに具体的で、工夫の余地のない内容に変化していきました。本来、研修会は、学んだ人自身が受け取ったものを、咀嚼し、価値づけ、知恵になっていくものだったはず。それは、学んだ人のアイデンティティが反映されたもののはずです。知ったら動き出したくなる、やってみたくなる研修会、もう一度、それを創造したい。その思いで、このプロジェクトを進めています。

現代教育研究所としては初めての、イベントサイトを使用した有料研究会となります。有料とした理由は、この研修会の質を担保するためと、受講する方々にモチベーションを保持してもらうためです。取り扱うテーマは、「論理的思考」「創造的思考」「批判的思考」「対話」。時代を問わず、教員にも子どもたちにも必要な力です。その「本質」と「社会のニーズ」を捉えて、自分なりに何かできそうだ、という気持ちになる研修会にしていきます。

第1回目は、12月8日開催の「論理的思考」です。現代教育研究所からは緩利誠、電通　アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所からは、倉成所長と「6か国転校生」で朝日新聞の「天声人語」でも紹介されたクリエイティブディレクターのキリーロバ・ナージャさん、そして特別ゲストとして「こたえのない学校」を主宰する藤原さとさんをお迎えしました。オンラインの良さを生かして、各界のプロフェッショナルから論理的思考の使い道と学んだ場所についてお話をいただいた動画を視聴し、論理的思考の分類やその面白さ、日常性について議論しました。

第2回は、2月18日開催の「創造的思考」です。現代教育研究所からは鶴田麻也美、電通　アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所からはコピーライター舘林恵さん、アートディレクターの本田晶大さん、小金井市教育長の大熊雅士さん、スペシャルゲストとして小児科医の本田真美さんをお招きして、「正解のない問い」について考えます。

来年度も引き続き、研修会は続きます。楽しくてタメになる研修会を目指しますので、ぜひ、皆様ご参加ください。　（文責：鶴田）

活動報告 ACTIVITY REPORT

「私学教育研究プロジェクト」

私学教育研究プロジェクトは、現代教育研究所の発足と同時に、私学教育研究グループとして活動を始めました。これまで、私学に関する論文などを読む勉強会、東京都内の私立学校に対する教員研修に関するアンケート（2016年）、公開セミナー「持続可能な校内研修」（2019年8月）などに取り組んできました。

しかしその後新型コロナの感染拡大により、2020年度の活動は停止状態になりました。それでもZoomによる打ち合わせ・勉強会は続け、2021年12月に小規模ながら、対面でのセミナーを開きました。

2022年度は以下のようなセミナー・勉強会を開催しました。

①「ポスト更新講習」における私学の教員育成～学校長と若手教師からの提言～（11月22日）

このセミナーは、教員免許の更新制が事実上廃止となり、改めて私学教員の育成のあり方を考えるために企画したものです。講師に梶取弘昌氏（大妻中学高等学校校長）と、本学卒業生の綾田瞳さん（千葉経済大学附属高等学校教諭 2012年度日本語日本文学科卒業）と飯田杏さん（光明学園相模原高等学校教諭　2018年度歴史文化学科卒業）をお迎えして、それぞれの立場から教員の育ちについてお話をいただきました。教師が育つためには、フォーマルな形の研修以上に、インフォーマルで日常的な教員間のコミュニケーションや、学校の支持的環境が重要であることが確認できた場となりました。

②公開勉強会「私立高等学校・新学習指導要領実施に関するアンケート報告について」（1月29日）

この勉強会では、一般財団法人日本私学教育研究所の山崎吉朗特任研究員が中心となって実施されたアンケート結果についてのお話を伺いました。新しい学習指導要領が今年度から完全実施となった高校の現場で、教育課程・授業方法などでどのような対応と取り組みがなされているか、その中で私学としてどのような課題があるかについて、全国の私立高校からの声を知ることができました。その中でも、教員の採用や配置などの問題を抱えている学校があることも示されました。

③合評会（『シリーズ 学びとビーイング　1. いま授業とは、学校とは何かを考える』りょうゆう出版　2022年10月）（2月19日）

本書は25名の教員が執筆していますが、本プロジェクトメンバーが参加していることから、合評会を行いました。より良い学びを促すための授業改革・学校改革の姿を知ることができました。

次年度は、これまでの取り組みを踏まえて、私学教員の育成についてさらに考えていく予定です。　（文責：友野）

「英語教育研究プロジェクト」

英語教育研究プロジェクトは、2022年11月26日（土）に、ワークショップ「英語絵本とCLIL（Content and Language Integrated Learning）について」を7名の参加者と開催しました。告知時点では対面での実施を計画していましたが、開催時期のコロナの感染拡大状況を考慮し、急遽Zoomでの開催に変更しました。開催方法は変更せざるを得ませんでしたが、大変有意義なイベントになりました。

プログラムは大きく分けて2部構成で実施しました。第1部では、ミニレクチャーを3つ実施しました。内容は、①「英語絵本の活用法」（本学英語コミュニケーション学科髙味み鈴担当）、②「CLILの指導法」（本学初等教育学科國分有穂担当）、③「絵本をCLILアプローチで用いた実践例の報告」（本学国際学部事務室岡川靖子担当）でした。これら3つのミニレクチャーを通して、小学生に向けて英語絵本を用いた英語活動の重要性と最近関心を集めているCLILアプローチについて概観し、この2つを合わせた実践例を参加者の方々と共有し、理論と実践を結びつける活動を行いました。

そして、第2部では、「絵本を使った活動を考えよう」というテーマで、参加者の方々に2つのZoomのブレイクアウトルームに分かれてもらい、実際に英語絵本を用いたCLIL活動を考えるというアクティビティを実施し、2つのグループからの提案を基に参加者全員で意見交換を行いました。

今回のワークショップではアクティビティを含め、参加者の皆さんと活発な意見交換ができました。全体を通して、参加者の方々が大変楽しそうに発言されていたのが、主催者としてはうれしい限りでした。

来年度以降も、英語教育に取り組む皆さんに向けて、「英語教育サロン」として英語教育に関する学習の場を提供したいと考えています。企画が準備でき次第、現代教育研究所ホームページでお知らせします。ご興味をお持ちの方々は、是非ご参加ください。　※所属は開催当時のもの。（文責：髙味）

「理科教育研究プロジェクト」

STEM教育実証実験

2020年度から研究会を重ねて取り組んできたSTEM教育のプログラムを、昨年度中野にある私立東京コミュニティスクール（以下：TCS）の4～6年生を対象に実施しました。授業の様子は子どもと保護者の同意を得て録画・編集し、現代教育研究所ホームページで公開しています。また、この実践は、『学苑　昭和女子大学紀要』971号（2023年1月発行）に「STEAM教育推進に寄与する教育方法の開発に関する研究―生活科・理科における「ものづくり」の再興―」というタイトルで論文として掲載されました。実証実験に参加した星名さんは「組み立てて、動き出したときの驚きと喜びの笑顔も印象的だった。カチッと組み立てるキットとは違う、自由度のある教材だからこそ、子どもたちの工夫や実験が広がるのだなとも感じた」と語っています。

実証実験から、STEM教育に適した教材の活用と、自由試行を取り入れた教育方法によって、子どもは教師による手助けが十分に無くても自ら意欲的に「ものづくり」を行うようになることと、Engineering とArtによる学びがScience、Technology、Mathematicsによる学びを呼び覚まし相乗効果をもたらすことが明らかになりました。

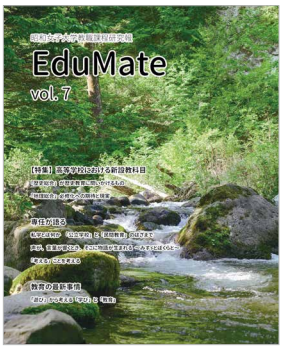
大学生が小学生を教えたら

小学校でプログラミングを実施することになりましたが、現場では混乱が続いています。十分に指導できる教員がいないので、しなくてはならない最低限の内容を何とかこなしている学校が多いようです。そこで、教員養成系大学の学生が小学生を教えることができるのではないかと考え、2023年1月18日に昭和女子大学附属昭和小学校理科サークル17名に、初等教育学科学生10名がプログラミングを教えに行きました。70分間の講座でしたが、子どもたちは、センサーに反応して光ったり音を出したり動いたりする作品を作って発表しました。

小学生が小学生を教えたら

大学生が教えられることは分かりましたが、どの小学校でも同じようにできるわけではありません。そこで、大学生と同じように小学生が小学生を教えることもできるのではないかという仮説の元、昨年度実践したTCSで2023年2月3日に実証実験を行いました。1年前にプログラミングを学んだ5・6年生と4年生がペアになって、大人はできるだけ口を出さずに見守ったのです。その結果、小学生ならではの良さが際立つ興味深い学びの場が展開しました。今後、データを分析して、違いについて論じることができるか検討していきたいと考えています。　（文責：白數）

発行物案内　PUBLICATION INFORMATION



教育課題研究グループ『EduMate vol.7』：昭和女子大学教職課程研究報

【特集】高等学校における新設教科目
「歴史総合」が歴史教育に問いかけるもの
「地理総合」必修化への期待と現実

専任が語る
私学とは何か「公立学校」と「民間教育」のはざまで
声が、言葉が響くとき、そこに物語が生まれる
　～みすゞとぼくらと～
「考える」ことを考える

教育の最新事情
「遊び」から考える「学び」と「教育」

昭和女子大現代教育研究所紀要第8号

本書の内容

論文	4本
研究ノート	4本
実践報告	3本

ご希望の方は研究所までお問い合わせください

コア・プロジェクト REPORT OF CORE PROJECT

Co-Creative Learning Session in SHOWA 2022

現代教育研究所がおくるコア・プロジェクト「コクリ＝Co-Creative Learning」。これは、中高部では総合的な学習／探究の時間、Co-Creative Learning Session（通称：コクリ）、大学ではリーダーズアカデミー、CoCreative Challenge（略称：コクチャレ）をフィールドとした「学びの冒険」です。「コクリ」の今年のテーマは「SDGs達成に向けた私たちの貢献」。

まず、ジュネレーターの緩利・青木が、コクリの学び「Be Creative!」について、語ります。身近なところに目を凝らし、毎日、いろいろなセンスオブワンダーに意識的になり、専門家の知恵を借りながら、学びを豊かに深める、そんな冒険をとおして、どこにもない、私たちだけの探究を繰り広げていくのだということを。SDGs冒険キックオフは「食をめぐる私のモノガタリ」。語りながら、聞きながら、メンバーたちは気づくのです「日々のモノガタリ、すべてが、SDGsにつながっている」と。

「観・感・勘」を鍛える〈クリエイティブ・レッスン〉でプレイフルエンジンをスパークさせ、私の周りのSDGsトピックに気づく「観察筋トレ」に入ります。そこから、いよいよコクリ冒険がスタートです。冒険ロードマップは、「知る」→「想う」→「創る」→「動く」。

STEP1〈知る〉は、情報をリサーチし、アイディアの素を探します。ここでのミッションが「ニュースショー」。キャスター・コメンテーター・レポーターなど、テレビニュースのメンバーになってSDGsトピックに迫っていくなかで、発想・視点が変わります。

STEP2〈想う〉のステージでは、探究の学びの原動力「問い」作りにチャレンジです。「大好きなお肉を30年後も食べ続けるには？」「Z世代に農業に関心をもってもらうには？」「アレルギーの友達と一緒においしいスイーツ食べるには？」「栄養のある受験生メシって？」「発酵食の魅力をひろめるには？」。このステージのミッションは「ラフアイディア・シートつくり」。興味関心が持てるトピックを見つけ、本気の「問い」が生まれたら、具体的な旅支度が必須です。プロジェクトの具体的内容、進め方、ゴールイメージ、探究の冒険ロードマップを描いていきます。

STEP3〈創る〉は問題解決に動き出し、カタチつくりのステージです。調査･実験･フィールドワーク、手足を使って素材を集め、情報ソースをあつめます。ここでのミッションは3分の「動画作成」。伝えたいことはなにか、それを明確にし、深く掘り下げ、ストーリーをつくります。

STEP4〈動く〉は、プレゼンから新たな問いを見つけ、動き出すステージです。制作した動画をもとに、SDGsモノガタリをどう料理するか。言いたいことを厳選し、表現、アイディアをとことん出し合い、ストーリーとして組み立てる、最後のミッションは「プレゼンショー」です。

コクリ・コクチャレのプレゼンショーの紹介です。

コクリ・プレゼンショー（高校生）

1：Z世代のための発酵料理、2：受験生エール飯、3：そうだ、日本茶、しませんか、4：ヴィーガン料理いかがでしょうか？、5：ようこそ、ハピネススイーツテーブル、6：世界に広まれ！“HACCO GAME”、7：農美太の農業を守ろう大作戦～農業をもっと身近に～

コクチャレ・プレゼンショー（大学生）

1：女子大生がぬか漬け生活やってみた！ー和食継承の第一歩、2：20XX年、肉の未来～今、私たちは肉危機を迎えている!?～、3：成長期の子どもの健康を守り隊！、4：「農業」でしか学べないことがある～子どもの身近に農業という居場所がある未来を目指して～

プレゼンテーションをする人も、見つめる人も「SDGsモノガタリ」が生まれる瞬間をリアルタイムで共有です。本気で楽しむ「ショータイム」の中、生徒・学生たちの思考は、ぐるぐると動き始めます。「今、ここで」思ったこと、その思考のスパイラルこそが次の経験に結びつく大きなエナジーに。プレイフルな学び「コクリ」は、知的好奇心を刺激し、私たちを次の冒険へと駆り立てるのです。

（文責：青木）

2023年度からホームページのURLが変更します。

昭和女子大学現代教育研究所 で検索

現代教育研究所では研究員を募集しております。

Newsletter vol.10　2023年3月31日発行
昭和女子大学　現代教育研究所
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
Tel：03-3411-7391
Mail：kyoikuken@swu.ac.jp
発行人：友野 清文